

2023（令和5）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492600737	事業の開始年月日	平成27年5月1日
		指定年月日	平成27年5月1日
法人名	株式会社 美咲		
事業所名	グループホームみさき豊町		
所在地	( 252-0305 ) 神奈川県相模原市南区豊町 13-13		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和5年7月3日	評価結果 市町村受理日	令和6年4月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居される方が、今まで暮らしてきた通りの生活が送れる様、また近づけられるように、決まった生活パターンにとらわれず、その方の日常に出来るだけ寄り添って行ければと思っております。理念にある「第二の家族」として、どこにでもある「家」であればと思います。認知症を患っている入居者様が、それぞれ好きな過ごし方をすることは難しいですし、コロナ禍において、外出やレクリエーションなどもまだまだ制限があるかと思っております。それでも、限られた生活の中で穏やかな毎を送る事が、認知症の進行を遅らせる一番の薬だと思ひ、職員一同努めております。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年8月23日	評価機関 評価決定日	令和5年9月21日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急線「相模大野」駅北口から神奈中バス「小田急相模原駅」行きに乗り「豊町」バス停で下車してすぐの場所にあります。「相模大野」駅から平坦な道が続き、徒歩でも通える利便性の良い立地にあります。

<優れている点>

職員は、法人理念である「第二の家族」として利用者に寄り添い、意向を優先した支援に取り組んでいます。自宅と同じように自由に好きな過ごし方ができるように、利用者の気持ちを理解することに努めています。住み慣れた地域社会の中で安心した穏やかな生活を続けていけるように支援しています。利用者の思いに対して職員は勝手な判断をせず、まず「どうしましたか？」と聞くことで、利用者の気持ちを優先する支援を心掛けています。また、職員育成の重要性を認識し、事業所内外の研修で職員は技術や知識を身につけています。研修参加に注力し、スキルアップを日々の支援につなげています。職員同士のコミュニケーションを大切にしています。分からない事をそのままにせず、何かわからないことが発生した時には職員皆で考える体制をとり、都度話し合いながら利用者本位の支援に努めています。

<工夫点>

コロナ禍で実施できなかった面会も家族の意向を尊重し、ガラス窓越しで面会できるように工夫しています。コロナ禍でも人出の少ないタイミングで、初詣・花見など多く戸外に出かけられるように努めています。SNSアプリにイベントの際の写真の載せることで、家族が利用者日々の生活を知ることができるようになっています。ホームページでは法人概要・施設の最新情報・求人募集・利用者の動画などを掲載し、人材確保につなげています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56	株式会社フィールズ

事業所名	グループホームみさき豊町
ユニット名	1階

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関に掲示しており、実践出来る様努めているが、掲示や理念の存在に気づいていない一部職員もいる。	法人理念を玄関ホールに提示し、職員・家族・来訪者にも周知しています。「第二の家族」のような存在であると共に「みさきで過ごせて本当に良かった」と想ってもらえるように、管理者と職員は理念を共有し、利用者に寄り添った介護サービスを目指しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナ感染拡大の為、自粛中。自治会に加入しているので回覧版で情報共有している。以前は公園などで地域の夏祭りなどに参加していた。	自治会に加入しています。コロナ以前は町内会の夏祭りや毎月行われる「歌の会」にも参加し、地域の高齢者とともに地域の一員として親睦を図っています。回覧板で知り得た情報を活用し、地域と関わり合いの持てるイベントには積極的に参加するように心がけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ感染の影響で、実践出来ていない。以前は自治会館でのほほえみカフェに参加する等、認知症の方との触れ合いを通して、理解して頂けていたと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナの影響で、実施できていないため、書面での報告になっている。以前は民生委員さん、自治会長さん等の参加で二か月に一度の開催をしていた。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しています。家族・地域包括支援センター職員・地域住民代表者・事業所職員が参加し、事業所の活動状況の報告や地域の情報交換を行っています。以前、運営推進会議で民生委員から夏祭りへの誘いがあり、以後町内会の夏祭りに参加しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護の方が数名いらっしゃるの、生活支援課のケースワーカーさんとのやり取り等、行なっている。	地域包括支援センター職員から運営推進会議の中で情報を得ています。相模原市生活支援課では、入居時や介護認定の更新、医療券の申請手続きを行っています。ベリーダンスや歌謡ボランティアなどのイベントを行い、利用者が楽しめるようにボランティア団体を活用しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	虐待・身体拘束委員により、年に数回(2回以上)の研修を行っている。スピーチロックに変わる、声掛けの仕方など、工夫している。	「緊急やむを得ない以外は」など、身体拘束を行わない旨を重要事項説明書の中にも記載しています。職員は「高齢者虐待・身体拘束」の研修を行い、身体拘束・スピーチロックなど虐待についても理解把握に取り組んでいます。職員は気づかないうちに利用者の気持ちを押さえつけていないか振り返りもしています。	身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を定期的に開催することが期待されます。
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と同様に、委員会による定期的な研修を行い、防止に努めている。	虐待防止委員会や研修を定期的実施しています。虐待が起こる理由や原因を理解し、虐待を防ぐ為に「虐待自己チェックシート」を活用しています。虐待につながる行為を発見した場合は管理者に報告し、管理者が注意をしています。虐待が見過ごされることのないよう徹底しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	該当する入居者様がいらっしゃり、成年後見制度について触れ、学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は管理者が行っている。契約までの説明、質問等を受け、入居までの不安を解消し、理解・納得して頂いている。見学対応は日常業務を熟知している職員が行なうことがある。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアマネージャーや職員がご家族様とやり取りする事があり、その際にご意見など伺う機会がある。	ケアプランの見直しの際に家族から意見や要望を聞いています。コロナ禍でも面会がしたいとの家族の要望に応じて、1階の窓越しで面会を実施しています。運営推進会議に参加の利用者・家族からの意見や要望を日々の運営に活かしていくよう心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案は、業務の中で都度管理者に伝えている。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図るように心掛けています。運営や管理についての意見や提案を業務の中で都度聞くことにしています。利用者との日常的な関わり合いの中で生まれる職員の気づきやアイデアを取り入れて、サービスの質の向上に反映させています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規則がある。勤務状況や実績などは、管理者を通じて報告されている。	就業規則に則り事業所運営を行っています。子育て中の職員には勤務し易い勤務時間の設定をしたり、職員各人が働きやすい職場環境の整備に努めています。管理者は職員の日々の努力や実績、勤務状況を把握しています。職員は定期的に健康診断を受け健康管理を徹底しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月の研修を行い、ケアの育成に努めている。外部研修制度があり、各自の学ぶ姿勢に答え、支援している。	事業所内で行われる研修にはなるべく多くの職員が受講できるように取り組んでいます。新人職員に対しても、管理者や職員がケアの技術面、利用者との関わり合い方について指導しています。研修に参加できなかった職員には資料を配布し研修内容を全職員が共有しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との交流は特にない。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談等でご本人から要望を伺い、不安を解消し良好な関係を築けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の面談で認知症の入居者様に変わり、ご家族様から困っている事などお伺いし、不安解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の情報や希望を取り入れ、必要な支援の把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様が生活する場に置いて、共に過ごすことを念頭に、出来る事はやって頂く、安心して暮らせる関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の生活状況報告書を通じて、ご家族からの質問、要望を取り入れケアプランへと繋げている。共に入居者様ご本人を支える関係づくりに努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前の生活環境などを把握し、コロナ以前は馴染みの場所への散歩など取り入れていた。	入居者の多くが近隣に住んでいた人のため、散歩やスーパーマーケットへの買い物中に馴染みの人から声をかけられることもあります。入居前の飲み仲間が訪問しています。職員は年賀状作成の手伝いをし、これまで大切にしてきた馴染みの人との関係が途切れないよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々、入居者様同士の関係を観察し、良い関係作りが出来る様、席替えなどの工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院先への訪問、また入院先でご逝去された際にご連絡をいただいた場合は、お別れのご挨拶に伺いご家族様の想いに寄り添う事があった。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様同士の関係、意向などよく観察し、それに配慮した支援が出来る様努めている。意思疎通が難しい方などは、様子観察から察して情報共有している。	入居時に利用者や家族から、暮らし方の希望や意向を聞いています。入居後は利用者の本音の話を多く聞くことができる、散歩中や入浴中に思いや意向を把握する様に努めています。明確に把握できない利用者も、利用者の視点に立ち、話し合い支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に得られた情報により把握に努め、日常の支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子観察、職員間の情報共有により、入居者様の現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員全員でのモニタリングを行ない、得た情報をケアマネがケアプランへと反映している。	ケアマネジャーが作成したモニタリングから職員全員が実際の状況などを記載し、再度ケアマネジャー、管理者、職員で話し合い、最終的なケアプランを作成しています。実際に職員の意見を反映した一例として、窓の外にゴミを捨てる習慣のある利用者の窓の下に、最初からゴミ箱を設置したこともあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を記録し、新たな気づきなどは職員間で情報共有しながら、ケアプランへと繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況変化や新たな支援が必要になった場合は、ご意見ノートやカンファレンスを通じ、都度、慣習にとらわれない対応に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ感染拡大での対応は難しいが、休診日に近所の病院にお花見に行くなど、工夫している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に回の往診は、入居時に受診するかを選択が可能。かかりつけ医との関係を継続する事も可能。	月2回内科の訪問診療、週1回の訪問看護と訪問歯科を行っています。訪問歯科は、利用者や家族の意向によって隔週受診するなど個別に対応しています。入居前からのかかりつけ医を選択することも可能で、通院は家族が付き添うことが基本となっています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週一回の訪問看護師の診察があり、相談内容やそれに対する指示等記録に残し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院のソーシャルワーカーと連絡を取り合い、情報共有している。また、直接医師からの説明を受ける場合もあり、関係づくりをしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の契約時にご説明し、ご家族の意思確認をしている。その場で判断できない場合は、重度化した場合に再度ご説明し、何度かに分けての説明、同意を繰り返すこともある。	入居時に重要事項説明書や指針同意書などを用い、家族に説明し意思確認を行っています。重度化する家族を目の前に揺れ動く家族の心境に応じて再度意思確認を行っています。利用者の状況と医師からの指示を踏まえ、家族が納得するまで待ち、説明と意思確認、同意を3回程行ったこともあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な研修を行っている。普段から状況把握に努め、個人に合わせた対応を周知している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練を実施している。消防署の立ち会い訓練や、消防器具の定期点検など、行なっている。災害時用備蓄品を確保している。	主に火災、地震、台風を想定し、半年に1回避難訓練を行っています。普段よりキッチンや浴室のコンセントをチェックし、防火対策に務めています。収納には水、粥、防災頭巾、非常用ランタンなどを備蓄し、災害備蓄品リストで管理しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修を行っている。入居者様の人格を損なわないような言葉使いや話し方を常に気遣い、対応している。	利用者一人ひとりの事を十分理解して尊重するように努めています。職員には、まず利用者と信頼関係を築くよう、通常の業務や研修会などで周知し実施しています。必ず「どうしましたか？」から声掛けを行い、語気が強くないよう心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様の様子を良く観察し、日々のやり取りの中から、本当の想いをくみ取れるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	服薬のタイミングに関しては医療と相談しながら、出来るだけ入居者様のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	それぞれの入居者様に応じて、身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備、配膳、後片付け等、入居者様の出来る事をお願いし、一緒に食事の時間を作るようにしている。季節に応じた別メニュー(冷やし中華、おせち料理、恵方巻など)と一緒に作った、コロナ前は、希望が多かった回転寿司を食べに行ったこともあった。	宅配食業者のメニューを、職員がアレンジして飽きないように工夫しています。感染予防対策として外食が難しい分、敬老の日に利用者の家族を招待し、焼きそばを振る舞うイベントを開催する予定を立てるなど、より食事を楽しめることを考案しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分が進まない時は、本人の好みの物を提供したり、決まった時間にとらわれず、提供する事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの実施、週一回の訪問歯科医の往診によって、口腔状態を維持している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	それぞれの方に応じた対応を行なっている。訴えが無くても、状況判断しトイレ誘導を行なっている。	利用者の排泄状況はチェック表に記録し、職員間で情報共有して適切な時間に誘導を行うよう努めています。できる限り歩いてトイレへ誘導し、排泄が自立できるように支援を行っています。移乗が困難と判断した場合、ポータブルトイレを利用し排泄介助を行うこともあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操や水分補給、食物繊維の多い食材を取り入れるなど、工夫している。便秘が続いた場合は、医療と相談し頓用の便秘薬を使用する事もある。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	チェックシートがあり、週二回の入浴を目指している。入居者様のタイミングに合わせてお声掛けしたり、希望を取り入れる支援をしている。	朝昼の時間帯に入浴を行います。毎回湯を張替えるよう心掛けており、入浴剤で香りを楽しむこともあります。鬼柚子という、正月の縁起飾りである、通常より大きな柚子を入れた柚子湯で利用者の興味を引き、入浴を楽しむ工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転に配慮しつつ、その方の状況に合わせて、休息を摂って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	定期的な往診や訪問看護と連携し、適切な服薬が出来る様、全職員が薬を理解し、変更、追加等があった時は、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナで出来ない支援もあるが、その方の嗜好に合わせたレクや役割など、楽しんで頂けるように支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的な外出は出来ていないが、季節のイベントではタイミングをずらして空いている時間に、初詣、花見等を行なっている。個人の散歩、買い物も状況に応じて支援している。	外出レクリエーションとしては、新型コロナウイルス感染症予防対策のもと、少人数にグループ分けしながら、近所の神社へ初詣や、桜の花を見ながら散歩するなど、近場で行える外出支援をしています。また利用者ごとに近所のスーパーやドラッグストアでの買い物支援も行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	紛失のリスクが高い為、金銭管理はご家族がしている。ご本人の希望がある場合は、立替金から購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望があれば、電話をし家族との交流が持てるように支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間の清掃は配慮されている。季節感を取り入れる為、イベントごとの写真の掲示、季節に合わせた飾りつけ等を行なっている。	落ち着いた雰囲気の使用スペースは清潔を心掛けた清掃を行っています。広く長方形なリビングはテレビが視聴できない場所があるため、テレビを2台配置することで全ての利用者が視聴できるように工夫しています。利用者との人間関係などを配慮した配席にしています。季節ごとにレクリエーションで作成した折り紙の作品や写真などを飾り楽しい雰囲気となるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングでは、行動の自由を規制することは無く、ソファではのんびりテレビが見られるような配置を工夫している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	備え付けのベットやカーテンはあるが、使い慣れた物や馴染みの物を持ちこんでいただける。冷蔵庫など、食中毒の危険性がある物は制限があるが、基本的に快適に過ごして頂けるように工夫している。	居室にはエアコン、照明器具、介護用ベッド、カーテンを完備しています。持ち込みは自由で、家族写真や塗り絵、ラジオ、好み作家の小説、若い頃より愛用していたオーディオなど、利用者思いの物を置いて居心地よく過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者様が安全安楽に生活が送れる様、環境整備に努めている。		

事業所名	グループホームみさき豊町
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	目につくところに掲示しており、日々心がけ実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナ感染拡大の為、自粛中。自治会に加入しているので回覧版で情報共有している。以前は公園などで地域の夏祭りなどに参加していた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ感染の影響で、実践出来ていない。以前は自治会館でのほほえみカフェに参加する等、認知症の方との触れ合いを通して、理解して頂けていたと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	管理者が対応。コロナの影響で、実施できていないため、書面での報告になっている。以前は民生委員さん、自治会長さん等の参加で二か月に一度の開催をしていた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者、ケアマネ、リーダー、計画作成者が対応。生活保護の方が数名いらっしゃるので、生活支援課のケースワーカーさんとのやり取り等、行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	虐待・身体拘束委員により、年に数回(2回以上)の研修を行っている。スピーチロックが変わる、声掛けの仕方など、工夫している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と同様に、委員会による定期的な研修を行い、防止に努めている。事故に至らないよう、フロア独自でチェックシートを作り、工夫している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	該当する入居者様がいらっしゃり、成年後見制度について触れ、学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は管理者が行っている。契約までの説明、質問等を受け、入居までの不安を解消し、理解・納得して頂いている。見学対応は日常業務を熟知している職員が行なうことがある。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアマネージャーや職員がご家族様とやり取りする事があり、その際にご意見など伺う機会がある。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案は、業務の中で都度管理者に伝えている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規則がある。勤務状況や実績などは、管理者を通じて報告されている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	常勤、パートの差異なく、ペアで細かくトレーニングしている。毎月の研修を行い、ケアの育成に努めている。外部研修制度があり、各自の学ぶ姿勢に答え、支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との交流は特にない。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談等でご本人から要望を伺い、不安を解消し良好な関係を築けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の面談で認知症の入居者様に変わり、ご家族様から困っている事などお伺いし、不安解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の情報や希望を取り入れ、必要な支援の把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様が生活する場に置いて、共に過ごすことを念頭に、出来る事はやって頂く、安心して暮らせる関係づくりに努めている。ズボンのお直し、雑巾作り等。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には密に連絡を取り合い、入居前の暮らしぶりや性格等を聞き、何でも相談しあえる関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前の生活環境などを把握し、コロナ以前は馴染みの場所への散歩など取り入れていた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々、入居者様同士の関係を観察し、良い関係作りが出来る様、席替えなどの工夫をしている。問題が生じる前に職員が介入し、トラブル防止に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院先への訪問、また入院先でご逝去された際にご連絡をいただいた場合は、お別れのご挨拶に伺いご家族様の想いに寄り添う事があった。退去された方のご家族が来設される事があり、いつでも訪問を歓迎している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様同士の関係、意向などよく観察し、それに配慮した支援が出来る様努めている。意思疎通が難しい方などは、動作、表情から推測し、対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の情報収集と、家族からのお話の中からヒントをいただき、サービスに活かすよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活記録を確認する。毎日のバイタル測定と、日内変動のパターンを考慮し対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員全員でのモニタリングを行ない、得た情報をケアマネがケアプランへと反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を記録し、新たな気づきなどは職員間で情報共有しながら、ケアプランへと繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況変化や新たな支援が必要になった場合は、ご意見ノートやカンファレンスを通じ、都度、慣習にとらわれない対応に取り組んでいる。また、必要な物品購入や手作りなど工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ感染拡大での対応は難しいが、休診日に近所の病院にお花見に行くなど、工夫している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に回の往診は、入居時に受診するかを選択が可能。かかりつけ医との関係を継続する事も可能。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週一回の訪問看護師の診察があり、相談内容やそれに対する指示等記録に残し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院のソーシャルワーカーと連絡を取り合い、情報共有している。また、直接医師からの説明を受ける場合もあり、関係づくりをしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の契約時にご説明し、ご家族の意思確認をしている。その場で判断で苦無の場合、重度化した場合に再度ご説明し、何度かに分けての説明、同意を繰り返すこともある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	対応マニュアルを作成し、職員間で対応方針を話し合っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練を実施している。消防署の立ち会い訓練や、消防器具の定期点検など、行なっている。非常食、水の備蓄をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修を行っている。入居者様の人格を損なわないような言葉使いや話し方を常に気遣い、対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様の様子を良く観察し、日々のやり取りの中から、本当の想いをくみ取れるように対応している。希望や思いをスムーズに伝えられる、気持ちを許せる存在になる様、日々の関わりを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来るだけ寄り添えるよう、努力しているが、施設のペースに合わせて頂く事もある。職員のマンパワー不足の影響も大きいと感じることがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	それぞれの入居者様に応じて、身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備、配膳、後片付け等、入居者様の出来る事をお願いし、一緒に食事の時間を作るようにしている。季節に応じた別メニュー(冷やし中華、おせち料理、恵方巻など)と一緒に作ったり、コロナ前は、希望の多かった回転寿司を食べに行ったこともあった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分が進まない時は、本人の好みの物を提供したり、決まった時間にとられず、提供する事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの実施、週一回の訪問歯科医の往診によって、口腔状態を維持している。歯科医のアドバイスを活かし、自立者には声掛けをし、介助の必要な方には仕上げのお手伝い又は全介助で支援している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	介護度がアップし、オムツ使用の方が増えている。トイレ使用が継続できるように努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操や水分補給、食物繊維の多い食材を取り入れるなど、工夫している。便秘が続いた場合は、医療と相談し頓用の便秘薬を使用する事もある。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	チェックシートがあり、週二回の入浴を目指している。入居者様のタイミングに合わせてお声掛けしたり、希望を取り入れる支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転に配慮しつつ、その方の状況に合わせて、休息を摂って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	定期的な往診や訪問看護と連携し、適切な服薬が出来る様、全職員が薬を理解し、変更、追加等があった時は、確認に努めている。ダブルチェックをして誤薬防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナで出来ない支援もあるが、その方の嗜好に合わせたレクや役割など、楽しんで頂けるように支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的な外出は出来ていないが、季節のイベントではタイミングをずらして空いている時間に、初詣、花見等を行なっている。個人の散歩、買い物も状況に応じて支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	紛失のリスクが高い為、金銭管理はご家族がしている。ご本人の希望がある場合は、立替金から購入している。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望があれば、電話をし家族との交流が持てるように支援している。一部入居者様は、手紙やはがきのやり取りをしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間の清掃は配慮されている。季節感を取り入れる為、イベントごとの写真の掲示、季節に合わせた飾りつけ等を行なっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングでは、行動の自由を規制することは無く、ソファではのんびりテレビが見られるような配置を工夫している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	備え付けのベットやカーテンはあるが、使い慣れた物や馴染みの物を持ちこんでいただける。冷蔵庫など、食中毒の危険性がある物は制限があるが、基本的に快適に過ごして頂けるように工夫している。身体で覚えている動線を変えないようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者様が安全安楽に生活が送れる様、環境整備に努めている。		

2023年度

事業所名 グループホームみさき豊町

作成日： 2024 年 4 月 29 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	身体拘束等の研修は行われているが、日常の中で起こりうる拘束等についての対策等の適正化に向けた話し合いとは別物である。	身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を定期的を開催する。	身体拘束の研修時に日常の業務を顧みず身体拘束に当たる行為や起こりそうな状況を検討し適正化に向けて話し合う機会を設ける。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月